

文具で「田舎のデイズニールランド」を作る！

今年三月、中小企業庁主催の「アトツギ甲子園」で最優秀賞を受賞したのが、福井県にある文具店、株式会社ホリタだ。

「地方で文具の小売りとは大変だ、というイメージがある中、今までにない切り口で地方を再定義し、革新的価値を提供できたことを評価していただいたのだと考えています」

二六歳で東京から戻った。祖父が作った文具店を母が継ぎ、卸を中心に事業を営んでいたが、小さな老舗は今や六店舗を展開、地元では知らない人のいない成長企業になっている。従業員十数人の会社を継ぐ決断をしたのは、商売の原点に触れたことだった。

「店番をしているとき、消しゴムを買ってくださったお客様がいらしたんです。ありがどうございます、と言うと、こちらこそありがどう、と言ってもらえて。頭を殴られたような衝撃を受けました。文具って、感謝してもらえるんだ、と。こんなありがたい商売はない、と思ったんです」

(撮影 編集部)

代表取締役
ほりた としむみ
堀田敏史



中小企業庁が主催する「第二回アトツギ甲子園」で最優秀賞を受賞し、今年話題となった「ホリタ文具」。福井県に店舗を構えながらも、直近の年間来客数は約七〇万人にも上るといふ。なぜホリタ文具はお客様に愛されるのか、堀田社長が発信する「リアル店舗」の魅力と新しい価値。

文具と人をつないだリアル店舗の新たな形

株式会社ホリタ

case 01

Community



p19

case 01

株式会社ホリタ
代表取締役
堀田敏史

Community



p22

case 02

レンティオ株式会社
代表取締役社長
三輪謙二郎

Sharing

特集

「つながり」

新時代

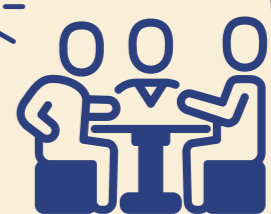
ビジネスモデル編

p24

case 03

株式会社ジェイプロ
代表取締役
久米由浩

Collaboration



p26

Interview

経営学者
川上昌直



コロナ禍、円安、価格高騰……さまざまな外的要因が襲い掛かった2022年。来年に向けて、新たなビジネスを考案している企業も少なくないのではないだろうか？ ユーザーやメーカー、大学、異業種の人々との「つながり」によって新たな価値を提供している企業取材した。

取材・文 上阪 徹

うえさか・とる ブックライター。1966年兵庫県生まれ。89年早稲田大学商学部卒業。ワールド、リクルート・グループなどを経て、94年フリーランスに。近著に『成功者3000人の言葉』（三笠書房 知的生きかた文庫）、『引き出す力』（河出書房新社）。